

# 会 議 等 結 果 報 告 書

会議区分	<del>会 議</del> <del>―― 打合せ ――</del> <del>協 議</del>	文書番号	安政推第 号
		決裁期日	令和8年6月1日
名 称	第3回安平町 町民まちづくり会議（第1部・第2部）		
日 時	（第1部）令和8年5月28日 午前・ <span style="border: 1px solid black;">午後</span> 6時30分～8時00分 （第2部）令和8年5月29日 午前・ <span style="border: 1px solid black;">午後</span> 6時30分～8時00分		
場 所	（第1部）総合庁舎 中会議室1 （第2部）総合庁舎 中会議室1		
出席者	町民参加者 （第1部）5名 （第2部）4名 安平町 （PTメンバー（第2部のみ））1名 （政策推進課）課長以下合計4名		
会議概要	<p><b>1 開会（進行：畑田課長補佐）</b></p> <p><b>2・3 課長挨拶及び自己紹介</b></p> <p><b>4 議事</b></p> <p>（1）第2回の振り返りについて</p> <p>（2）『SWOT分析一覧表』について</p> <p>■第2次総合計画策定時に作成された表をベースに、現在の安平町の状況に即しているかなど、参加者の実感について具体的かつ多角的な議論を実施した。</p> <p><b>1. 立地・地勢：強みと弱みの逆転現象</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>鉄道網の再定義：</b> 10年前は「強み」だったが、現在は存続への不安や本数の少なさ（特に日中の空白時間）から、もはや「網」とは言えないのではとの意見が出された。 交通手段として計算できず、将来性が不透明なため、むしろ「弱み」や「脅威」に位置づけるべきだとの認識が共有された。</li> <li>・<b>「雪の少なさ」への違和感：</b> 近隣より少ないものの、道外からの移住者にとっては「雪が多い」と感じられる可能性があり、3年前の記録的な大雪の記憶も新しいため、客観的なデータによる再検証が必要と整理された。</li> <li>・<b>人口減少への評価：</b> 「深刻な」人口減少が弱みとされていたが、直近4年の社会増f rシミュレーションよりも減少が抑えられているため、「弱み」から外しても良いのではないかとの前向きな意見が出された。</li> <li>・<b>都会への近さが生む「選ばれない町」：</b> 千歳や札幌に近いことは強みだが、一方で「仕事や学校はあるが、住む場所は利便性の高い隣接市を選ぶ」という構造を生んでいる。中夜間人口比率が高いにもかかわらず、定住に結びつかない「近接ゆえの脅威」が指摘された。</li> </ul> <p><b>2. 生活環境・インフラ：新たな資源と課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>再生可能エネルギーと蓄電施設：</b> 町内にある世界最大級の蓄電施設（レドックスフロー電池）は、劣化しない画期的な施設であり、重要な強みであるとの意見があった。 メガソーラーについては、環境破壊の文脈で捉える層もいるため、表現の検討が必要とされた。</li> </ul>		

・**空き家・空き地の捉え方：**

追分地区の空き家増は弱みとされてきたが、現在は移住者の受け入れ先（キャパシティ）としての「強み」や「機会」になり得るとの声があった。

・**希少生物：**

シマエナガは東早来での目撃例などが紹介され、自然豊かな環境の象徴として人気がある一方、町の圧倒的な強みとするには生息データの検証が必要とされた。

3. 経済・産業：チャンスと副作用

・**ラピダス進出（千載一遇のチャンス）：**

隣接する千歳市へのラピダス進出は、追分地区などを中心とした通勤圏内としての人口流入が期待できる最大の「機会」であると議論された。

・**なの花とオーバーツーリズム：**

なの花畑は強力な集客力を持つ一方、渋滞や農地への侵入といったオーバーツーリズムの課題を抱えており、景観維持と農家への利益還元バランスが問われているとの議論がなされた。

4. 健康・福祉：隠れた最強の強み

・**トレーニングジムのクオリティ：**

スポーツセンターのジム設備が非常に充実しており、「混まない・安い・綺麗」という理由で町外からも利用者が来るほどの「特筆すべき強み」であると高く評価された。

・**合宿拠点のポテンシャル：**

プール、ジム、宿泊施設が近接しているため、夏の涼しさを活かしたスポーツ合宿の拠点（強み）としてより連携を強化し、屋外スケートリンク跡地を陸上トラックなどに転用して「プール」「ジム」「宿泊施設」が揃った完璧なスポーツ合宿拠点として、道外のチームを呼び込めるとの具体的な展望が語られた。

5. 教育：

・**子ども園から学園へのギャップ：**

子ども園は最強の移住動機だが、小学校に上がった際に、子ども園ほどの特色が感じられないという「教育の中身のギャップ」を埋めるべきだとの意見があった。

・**移動手段とコミュニティの希薄化：**

部活動が地域クラブへ移行する中で、子どもの送迎（アビーバスの利用や親同士の車出し）が課題化しており、人間関係の変化で以前は「ついでだから乗せていくよ」という互助が現在では「ガソリン代をいくら払えばいいかルールを決めてほしい」という声が出るなど、善意のやり取りが金銭的な割り切りに置き換わり、地域コミュニティが希薄化していることへの懸念が示された。

・**追分高校：**

「魅力ある学校」への進化は、10年前にはなかった新たな強みであると確認された。

6. 社会的脅威：10年前にはなかった視点

・**外国人労働者との共生：**

軽種馬産業等で働く外国人が急増しており、労働力として不可欠な一方、文化の違いから住民が抱く「漠然とした精神的不安」が新たな課題として挙げられた。雇用側によるモラル教育や、住民との相互理解・交流の機会を作ることが第3次計画において重要になると指摘がされた。

7. 人づくり・コミュニティ：旧町意識と活動の変容

・**旧町意識：**

10年前に「弱み」として挙げられているが、参加者からは「実生活で差を感じることはない」との意見が出た。ただし、例えば「交通網の発展」を強みと感じるのは旧追分地区の住民のみで、早来地区ではメリットを感じにくいといった「居住地による視点の違い」があるのではとの指摘があった。

活性化のアイデアとして、これを逆手に取ってソフトボールやアイスホッケーなどで「早来 vs 追分」の対抗戦を行い、健全に競い合う機会を作れば盛り上がるのではないかという提案もなされた。

• **祭りと地域の活気：**

両地区の祭りが年々縮小しており、かつては露店がずらりと並んでいた時代と比べ、子どもの数や出店数が減っている寂しさが語られた。

• **自治会活動の形骸化：**

加入率の低下に加え、「誰が担当か分からないため会費を払いたくても払えない」「ゴミ出しの相談ができない」といった、新住民と自治会の接点の難しさが報告された。

**5・6 その他／閉会**

◇6/25以降に実施する。

以上